

SDGs新聞

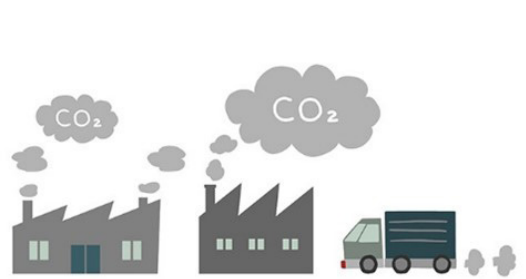
ワイケイケイ エーピーかぶしきがいしゃ
YKK AP株式会社

「地球にやさしいものづくり」ってなんだろう？

SDGsラジオを読んでみよう！

「地球にやさしいものづくり」って、どんなことだと思いますか？
例えば、授業でなにかをつくるとします。すると、紙くずや絵の具のごみが出ますよね。
そしてこのごみを燃やして処分するときには、地球温暖化の原因になる二酸化炭素がたくさん出てしまいます。
そこで窓の会社「YKK AP（ワイケイケイエーピー）」では、ごみのリサイクルに取り組んでいます。
窓などの商品をつくるときに出るプラスチックや金属などの切れ端を材料として生まれ変わらせることで、出すごみの量を減らしているんですよ。
さらにYKK APでは、ごみを燃料として再利用する取り組みも進めています。
この燃料を使って商品をつくれば、もっと地球にやさしくできますよね。
地球にやさしいものづくり、それは、ごみを出さないものづくり。
みなさんもまずは、毎日の暮らしの中で、ごみを減らすことから始めてみませんか？

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：ゴミがリサイクルされてできた固形燃料
(YKK APのHPより)

地球の未来を守るためには、環境のことを考えた「地球にやさしいものづくり」が大切です。この「地球にやさしいものづくり」では、使い終わったものを別の商品に生まれ変わらせたり、使い終わったものをまた同じ商品に生まれ変わらせたり、「ものをリサイクルすること」が重要です。また、ゴミを燃やして処分する際に発生する二酸化炭素の量を減らすことも大切です。二酸化炭素が増えすぎると、地球温暖化の原因になってしまいます。このようなことから、ものをリサイクルして限りある資源を守り、できるだけゴミを減らす「地球にやさしいものづくり」に今社会では大きな注目が集まっています。

そしてこの「地球にやさしいものづくり」の実現を目標に、さまざまな取り組みを行っているのが窓の会社「YKK AP」です。窓などの商品をつくるときにプラスチックや金属などの切れ端をリサイクルして、原材料の一部として再利用しています。また、そのままの状態ではリサイクルができないプラスチックやゴム屑、紙は、固形燃料へ生まれ変わらせることで、ゴミを減らしています。どちらも地球にやさしいものづくりを実現するための大切なステップです。みなさんも、日々の暮らしの中で、ゴミを捨てる際に「これは本当にリサイクルできないのか？これは捨てるしかないのか？」と少し立ち止まって考えてみてはどうでしょうか？

キーワード

二酸化炭素

わたしが息を吐いたり、化石燃料と呼ばれる石油や石炭などを使った際に出る気体です。この気体が増えすぎると、地球の気温が上がる「地球温暖化」が進んでしまいます。

地球温暖化

地球温暖化とは、地球がだんだん暖かくなっていることです。これが進むと、北極や南極の氷が溶けたり、急に大雨が降ったり、すごく暑い日が続いたりすることがあります。

資源

わたしが毎日の生活の中で使う自然の恵みやエネルギーのことです。水、木、石油などがその例です。

対象ゴール



みなさんにできること！

「リサイクル」を意識しながら、日々の暮らしを送ってみては、いかがでしょうか？

おさらい

- 「地球にやさしいものづくり」では、いらなくなったものをいろいろな方法で、リサイクルすることが大切。
- ゴミを燃やすときには二酸化炭素が出るため、地球温暖化の原因になる。
- YKK APでは、商品をつくる時にプラスチックや金属の切れ端を原材料としてリサイクルしている。さらにそのままでは原材料にリサイクルできないプラスチックやゴム屑、紙は、固形燃料として生まれ変わらせている。

メモ



SDGs ラジオ